パラグアイ情勢 (2024年10月)

【国内政治】

● リベラル党大会

6日、リベラル党（最大野党）大会が開催され、同党の役員選挙は、2026年市長・市議会議員選挙とは別日の2025年8月17日に行われること、また、党首が大統領選に出馬する場合は、本選6か月前に党首を辞任することを党則に定めることが決定された。フレイタス・リベラル党党首及びタラベラ第一副党首は党大会を欠席し、その後、フレイタス党首は本党大会での決定事項を認めない旨の発言を行った。

● パラグアイの経済的成功はコロラド党の成果

7日、ペニャ大統領は、ラテンアメリカビジネス評議会（CEAL）にて、パラグアイの経済的成功は、公共部門と民間部門との数十年にもわたる連携と与党コロラド党の政治的成功の成果であると述べた。

● Sumar 計画

7日、ペニャ大統領は、Sumar 計画（薬物中毒者対象の更生計画）について、関連する22の機関との会議を行った。主な課題として精神科医によるサポートの強化などが挙げられ、今後月1回の会議開催が約束された。

● NGO 法案

9日、NGO の透明性に関する法案の修正案が下院でについて、再審議され、可決された。下院の修正により、国際機関や外国の援助専門機関等に関する活動は規制の対象外となったが、国連の特別報告者はNGOへの過度な活動制限につながるとして法案を批判する書簡をペニャ大統領に送った。（11月15日、ペニャ大統領は、拒否権を発動することなく本法案を施行。）

● 夏時間

11日、夏時間を一年中適用する法案が施行された。これにより、パラグアイの公式時間は年間を通してUTC-3となる。

● パラグアイ経済の評価

23日、当地メディアは、フィッチ社がパラグアイの格付け（BB+）を維持する決定をした旨報じた。投資適格への引き上げのための改善点として、ガバナンスの脆弱さ、十分に信

頼できる財政健全化計画の不足などが指摘された。一方、同日、IMFのパラグアイの経済成長に対する好意的な評価も報じられた。

- アリアナ副大統領への期待

24日、ペニャ大統領はアルト・パラナ県訪問時に、アリアナ副大統領が現政権のビジョンを引き継ぐことへの期待感を示し、2028年大統領選挙の結果は自政権の成果への国民の評価が反映されようとの考えを示した。

【対外関係】

- ブケレ・エルサルバドル大統領のパラグアイ訪問キャンセル

3日、ブケレ大統領がパラグアイを訪問予定であったが、直前にスケジュールがキャンセルされ、ブケレ大統領はアルゼンチンからコスタリカに直接向かった。

- エステ市の「友情の橋」経由での物資流通量が倍増

3日、パラナ河の水位が下がっていることから、エステ市の「友情の橋」（ブラジル国境）経由での物資流通量が倍となり、国境通過時の渋滞が深刻な問題として指摘された。

- 駐日パラグアイ大使が信任状捧呈

10日、トヨトシ駐日大使が信任状を天皇陛下に捧呈した。

- 韓国・台湾の保健当局がパラグアイ牛肉市場開放に向けた監査を実施

14日から、韓国の保健当局が、パラグアイの牛肉輸入の開放を見据えて、食肉加工工場、畜産施設等に対する監査を約2週間にわたって行った。台湾の当局も、牛肉解体工場を視察し、メディアは対台湾牛肉輸出のさらなる拡大を期待する。

- 台湾の協力プロジェクト

20日、当地メディアは、台湾の林嘉隆(Lin Chia-lung)外交部長の、AI、公共交通機関、教育分野における台湾・パラグアイ間の共通の価値観に基づく協力関係を強調する発言を報じた。同日、両国間の特に技術分野での協力のさらなる促進への期待感を示すハン当地台湾大使へのインタビュー記事も報じられた。